

ヒューマンドキュメンタリー映画

『やさしくなめに～奈緒ちゃんと家族の35年～』 プレスリリース



いせフィルム

TEL: 03-3406-9455 FAX: 03-3406-9460 メール: ise-film@rio.odn.ne.jp
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階
HP: <http://www.isefilm.com>

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～

『やさしくなあに』は、家族の映画です。

天真爛漫な長女、奈緒ちゃん。
やさしくて働き者のお母さん。
お酒とゴルフが大好きなお父さん。
スポーツ万能の弟。
どこかで見たことのあるような台所やリビング。
いつもの会話、いつものやりとり。
そして、家族の誰かや自分の悩み……。

『やさしくなあに』は、家族の映画です。
観た人はきっと、自分自身の家族との日々を思い返すでしょう。

笑ったり泣いたりしながら営まれる家族の日々を、
カメラは35年間、丁寧に記録しつづけました。

この映画は、私にとっても家族の映画です。
主役は姪っ子の奈緒ちゃんとその家族。
テーマ曲は姉、西村信子（奈緒ちゃんのお母さん）、
チラシの絵は亡き母、木島浜子、
亡き父、伊勢長之助（記録映画編集者）と関わりがあるスタッフもいます。
題字は、伊勢真一……。

我が家族と仲間たちで創った、家族の映画です。

（演出・伊勢真一）



序・目次	2
タイトル『やさしくなあに』のこと	3
かんとかのつぶやき（演出・伊勢真一）	4
企画・製作の背景	5
奈緒ちゃん一家プロフィール	6
奈緒ちゃんの家族年表	7
奈緒ちゃん3部作のこと	8
伊勢真一プロフィール	9
奈緒ちゃんの35年に寄り添ったスタッフ	10

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～

タイトル『やさしくなあに』のこと

「ケンカしちゃいけないよ。
やさしくなあに・・・って言わなくちゃ。」

1983年から35年間、
てんかんと知的障がいをもつ奈緒ちゃんに寄り添ったカメラとマイクは、
その時々の「奈緒ちゃん語」を記録してきました。

撮影を始めた頃、奈緒ちゃんは
「今、何時？ まだ早すぎる！」と、しきりに語りかけてきました。
よくわからないけれど、わかるような気もする不思議な「奈緒ちゃん語」。

「ケンカしちゃいけないよ。
やさしくなあに・・・って言わなくちゃ。」

ある時、お母さんと言い争うお父さんに向かって、奈緒ちゃんが言った言葉です。

“やさしくなあに”という言葉が、
奈緒ちゃんの、小鳥のさえずりのような声で語られると、なんとも心地よく響きます。
夫婦ゲンカも、グループホームでの仲間のケンカも、
これで間もなく止んでしまうらしい・・・。
まるで呪文みたいな不思議な「奈緒ちゃん語」。

この映画のタイトルは、迷うことなく、「やさしくなあに」に決まりました。

世界中のみんなに、奈緒ちゃんから
「やさしくなあに」が届きますように・・・。





ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



かんとくをつぶやき

奈緒ちゃんに逢いに来ませんか？

(演出・伊勢真一)

「この子は長く生きられない…」医者にそう言われた、と姉が長女・奈緒ちゃんのことを私に話してくれたのは、奈緒ちゃんが2才か3才の頃だったか…。てんかんと知的な障がいを含ませもっていたのです。無力だった私は何もしてあげられませんでした。

自分に出来ることは映画を創ることだ。家族のアルバムのような記録を撮って、お母さんとお父さんと弟の記一と、奈緒ちゃん、一家四人にだけ観てもらう、そんなショートフィルムを創ってみようと思いついたのは、奈緒ちゃんが小学校に上がって間もなくのこと。8才の正月にカメラは回り始めました。

撮るべきものは“元気な奈緒ちゃん”。奈緒ちゃんがそこに居て、笑っているだけでいい。生きていてだけでいい…。ただただ奈緒ちゃんを撮るという素朴な記録、テーマなんか知ったことか。奈緒ちゃんに逢いに、スタッフと通い続けました。

奈緒ちゃんが育まれ、奈緒ちゃんが育んだ、「しあわせ」。気がついたら12年の歳月が流れ、完成した映画『奈緒ちゃん』は、思ってもいないような評価を受け、全国各地で自主上映の輪が広がって行ったのです。

しかし、“元気な奈緒ちゃんを撮る”という課題は、まだ終わりませんでした。何故なら、奈緒ちゃんはどうも元気になり、奈緒ちゃんを育てながらお母さんもまた、元気になっていったからです。お母さんは、障がいのある子どもをもつ仲間たちのリーダーとして、「びぐれっと」と呼ばれる地域作業所を立ち上げ、地域の中で、奈緒ちゃんたちを育てる活動に取り組みます。

そして奈緒ちゃんは、やがて「びぐれっと」が作ったグループホームで暮らし始め自立します。

私はその過程を映画『奈緒ちゃん』の続編として『びぐれっと』『ありがとう』という二本のドキュメンタリー映画にまとめました。

それでも撮影を止めませんでした。“元気な奈緒ちゃんを撮る”という約束を果たすために。

そして気がついたら、撮影を始めてから35年の歳月が積み重ねられていたのです。

「長くは生きられない…」と言われた奈緒ちゃんがしっかりと生き続けた事実を観てもらわなければ、「生きたぞ!」「生きてるぞ!」と言わなければ、と思いついたのは2016年の夏でした。

「奈緒ちゃんが生まれたから、生きたから、たくさんのいのちが生きた。」

奈緒ちゃんを育て、「びぐれっと」を育てたお母さんは、今もおおいに悩みながら自分自身の人生を模索し続けています。

お父さんは、定年後も仕事を続けています。もちろん好きなお酒も呑み続けています。

弟の記一にも色々なことがありました。人生半ば、まだまだ色々なことがあるにちがいません。

そして奈緒ちゃんは元気です。44才になります。

“元気な奈緒ちゃんを撮る”。奈緒ちゃんに逢いに行く旅は、まだまだつづきます。

「元気？」
奈緒ちゃんに逢いに来ませんか？





ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



企画・製作の背景

2016年夏、毎年のように通い撮影し続けた奈緒ちゃんの誕生日。
撮影は34年目となり、奈緒ちゃんは43才になった。

7月14日は、パリ祭の日。そして、その日は、てんかんと知的障がいのある姪っ子の奈緒ちゃんの誕生日です。この日と正月は、毎年のように神奈川県横浜市の郊外にある西村家へ、スタッフと共に通い続けてきました。

2016年夏、奈緒ちゃんは43才。撮影は34年目でした。元気な奈緒ちゃんを撮ることだけがテーマの、私たちのドキュメンタリーは、いつもの元気一杯の奈緒ちゃんを撮影した・・・と

言いたいところですが、珍しく発作が頻発し、お母さんはとても心配していました。あとでわかったことですが、薬の飲みマチガイによる発作でした。

奈緒ちゃんは0才の時から薬を飲み続けてきました。薬無しに生きることができない身体なのです。奈緒ちゃんに限らず、障がいのある仲間や病気の人々にとって、薬は命綱です。

その夏、神奈川県相模原市の障がい者施設で事件が起きた。
「生産しない者には生きる価値がないという社会の本音・・・」

誕生日から半月ほど過ぎた7月27日。奈緒ちゃんの暮らす、同じ神奈川県相模原市にある障がい者施設で、一人の青年が、19人の重度障がい者を殺害する、というおぞましい事件が起きました。その青年は「障がい者はいない方がいい。死んだ方がいい・・・」と言ったそうです。

奈緒ちゃんを育て、「ぴぐれっと」という障がい者施設を仲間たちと立ち上げ、活動を続けてき

た姉は、大きなショックを受け、「奈緒ちゃんや、障がい者を嫌っている人もたくさんいることを、思い知らされた・・・。この事件は、一人の異常者が起こした事件、というだけではなく、生産しない者には生きる価値がない、という今の社会の本音が反映されたのではないかと思う」と、悔しそうに語っていました。

姪っ子の奈緒ちゃんだけでなく、「たくさんの奈緒ちゃん」が
生きている、ということを観てもらわなければ・・・。

ただただ「生きる・元気な」奈緒ちゃんを、プライベートな思いを大切にしながら撮り続けた記録を、今こそまとめなければ・・・。

私の気持ちにもスイッチが入りました。

姪っ子の奈緒ちゃんだけでなく、「たくさんの奈緒ちゃん」が生きている、生きてきた、生きて

行く、ということを観てもらわなければ・・・と。

姉に励ましのようなメールを送ると、姉から返信がきました。「奈緒ちゃんが生まれたから、たくさんの人や物が生まれた。奈緒ちゃんが生まれたから、たくさんの人や物が生きた。」

その通りだ!!

奈緒ちゃんの35年間に寄り添った日々のささやかな記録が、
社会の流れを押し戻す力になればという思いも込めて。

2017年、夏。あれから一年。

奈緒ちゃんが生まれ、生きた、35年間に寄り添い記録した、このささやかな映画は、世の中を変えるような力はないかもしれませんが。

けれど、弱肉強食をよしとする社会の流れを押し戻す力のひとつになりたい。

そんな思いも込めて創った映画です。



やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



奈緒ちゃん一家プロフィール

1983

1995

2017



(中央の写真) 左から：ノリくん・お母さん・奈緒ちゃん・お父さん

お母さん —— 西村信子

1942年生まれ。伊勢真一監督の実姉。記録映画編集者・伊勢長之助の長女で、若い頃は音楽家を目指していたこともある。

西村大乗さんと職場結婚し、難産のすえ奈緒ちゃんを出産。てんかんと知的障がい併せ持つ奈緒ちゃんを育ててきた。

1990年代に、仲間のお母さんたちと地域作業所「びぐれっと」を立ち上げ、障がい者が地域で共に生きる道筋を拓いた。

現在も「びぐれっと」や認知症・精神障がいをもつ人たちのグループホームで、介護の現場にかかわりながら、「奈緒ちゃんのお母さん」を生きている。

今も音楽家になる夢をあきらめていない。

奈緒ちゃん —— 西村奈緒

1973年7月14日生まれ。誕生後間もなく難治性のてんかんと知的障がいがあることがわかり、治療がはじまる。幼い頃は重い発作がくり返され、両親は医者から「この子は長くは生きられません。」と宣告された。しかし、てんかんの専門病院での持続的な治療と薬の効果が相俟って、障がいを抱えながらも生きて行く道が拓けた。お母さんが「積極的に地域で育てる」という方針だったこともあり、明るく元気な奈緒ちゃんはグングン成長していった。

今は、お母さんが立ち上げた「びぐれっと」のグループホーム「みなみ風」で暮らし、週に一度、実家で過ごす、安定した日々を送っている。

「ハイ！ 障がい者です！！」

奈緒ちゃんは、今日も元気だ。

お父さん —— 西村大乗

1944年、北海道生まれ。40年に及ぶビジネスマンとしての半生を勤め上げ、定年退職から3年後、再び第二の仕事現場へ。「生涯現役」をモットーとして、酒とゴルフを生き甲斐に今日も仕事に邁進している。夫婦喧嘩が絶えない日々耐えつつ、一家の大黒柱としての存在感を発揮している。

お父さん「まさか奈緒がこんなに元気に生き続けるとは思ってもいなかった・・・」

奈緒ちゃん「お父さん、酔っ払い！！」

西村家のいつものやりとりだ。

ノリくん (弟) —— 西村記一(のりかず)

1977年生まれ。奈緒ちゃんと4才違いの弟。サッカー少年だった時代を経て、20代前半から、お母さんが立ち上げた地域作業所「びぐれっと」で介護の仕事に取り組み、持ち前の明るさとバイタリティーで利用者の信頼を得てきた。

今は、さまざまな仕事に取り組みながら、人生を模索中。日々生きることに汗を流しながら、大好きな和太鼓にも汗を流している。本来はお姉ちゃんである奈緒ちゃんを妹のように思いやる、優しい弟である。



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあと

～奈緒ちゃんと家族の35年～



奈緒ちゃんの家族年表

奈緒ちゃんは、1973年7月14日生まれ。姉と私の父、伊勢長之助が他界した年の初夏でした。撮影をはじめたのは、1983年1月3日・・・、まさか35年間も撮り続ける映画になるとは思っていませんでした。その歳月を振り返ってみようと思います。（伊勢 直一）

		1972	4月7日 大乗 信子 結婚	
上野動物園でパンダ公開 札幌冬季オリンピック		1973	1月1日 伊勢長之助(信子の父) 死去 7月14日 奈緒 誕生	
オイルショック トイレトペーパーパニック		1974	1月 奈緒(6ヶ月) 初めての大病作 1時間30分 てんかんと診断される	
カラオケブーム ピンクレディ旋風		1977	4月14日 記一 誕生 10月 奈緒 静岡てんかんセンターにかかる(てんかんと知的障がいをあわせ持つ)	
		1978	奈緒 上飯田幼稚園 入園 記一 横浜市立いちよう保育園 入園	
		1980	奈緒 いちよう小特殊級学級 入学	
		1981	奈緒 上飯田小つくし級 入学 信子 つぼみの会の活動を始める	
		1982	記一 上飯田幼稚園 入園 サッカーを始める	
ディズニーランド開園 インターネットが誕生 ファミコンブーム		1983	1月 映画『奈緒ちゃん』撮影開始	
		1984	記一 上飯田小 入学	
昭和から平成に 消費税3%スタート		1986	奈緒 上飯田中学特殊学級 入学	
		1989	奈緒 瀬谷養護学校 入学	
		1990	記一 上飯田中学 入学	
千代の富士 引退		1991	信子 びぐれっとと正式スタート(運営委員長、所長兼務)	
		1992	奈緒 ふきのとう向生舎 通所	
		1993	記一 岡津高校 入学	
		1995	映画『奈緒ちゃん』完成	
冬季長野オリンピック Windows98発売		1998	記一 びぐれっと 入社	
		2000	信子 びぐれっと2 スタート	
		2002	映画『びぐれっと』完成	
日本の65歳以上の人口率が世界最高に 15歳以下の人口率が世界最低に		2006	奈緒 びぐれっと 通所 映画『ありがとう』完成	
		2008	大乗 定年退職	
リーマンショック		2011	記一 病気になる 和太鼓「音や」に所属	
東日本大震災		2014	信子 心臓の手術で入院	
2月 川崎市の老人施設で転落死 元職員 逮捕 7月 相模原市の障がい者施設で19人刺殺 元職員 逮捕		2016	7月 奈緒(43才) 朝晩7錠の薬を飲み続けている	
		2017	7月 映画『やさしくなあと』完成	



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



奈緒ちゃん3部作のこと

1983年に始まった奈緒ちゃんの撮影は、1995年に映画『奈緒ちゃん』として完成。

その後、2002年に『びぐれっと』、2006年に『ありがとう』と、三本の作品にまとめられました。

それは、障がいを持つ奈緒ちゃんが、家族や仲間たちと共に生きる姿を追い続けたヒューマンドキュメンタリーです。

今も、自主上映が全国各地で行われています。



奈緒ちゃん

(98分/1995年)

てんかんと知的障がいをもつ少女・奈緒ちゃんの、8歳から成人式までの12年間を追ったヒューマンドキュメンタリー。障がいのある子を持つ家族の日常を、淡々と、そして静かに見つめ続け、映画は“しあわせ”について問いかける。伊勢真一監督の自主製作、自主上映による映画創りの処女作。

《毎日映画コンクール記録映画賞グランプリ》
《'95年度キネマ旬報文化映画ベストテン2位》
他



びぐれっと

(98分/2002年)

“奈緒ちゃん”シリーズの第二弾。奈緒ちゃんのお母さんと仲間たちは、地域作業所「びぐれっと」を立ち上げ、やがてハンディキャップを持つ人々やその家族を支える場へと成長していく。奈緒ちゃん一家と、底抜けに明るい「びぐれっと」の仲間たちの日々を描いたドキュメンタリー。

《キネマ旬報文化映画ベストテン8位》



ありがとう

—「奈緒ちゃん」自立への25年—
(105分/2006年)

8歳だった奈緒ちゃんも30歳を越える年になり、家族はグループホームへの自立を考え始める。“自分たちが元気なうちに、生きていく力をつけてあげたい”と願う親の想いと、“ずっといっしょに暮らしたい”という本音の間で揺れ動く家族の葛藤を、優しく描いていく。奈緒ちゃん一家それぞれの、自立と成長の物語。

《フランスFIPA映画祭招待作品》
《キネマ旬報文化映画ベストテン5位》

まるで自分の親戚の家の出来事を見聞きするような、親身な気持ちで見ることのできる映画でした。とても良かったです。

佐藤忠男[映画評論家]

奈緒ちゃんのイノセントさとユーモアがまわりを勇気づけてくれる。励ましてくれる。奈緒ちゃんはしっかりと生きている、と思った。

(30代 女性)

子育てが必死だった時には大きかった公園が、ある日とてもちっぴけに見える。十二年ひとつの家族を見続けたことで、そんなふうに家族の風景が時代と共に見事にあぶり出しにされている。

佐藤真一[映画監督]

今どきの家庭での会話の無さを恥じています。自分が疲れていれば黙る、気に入らなければ黙る、家庭の暖かさは会話から生まれることを認識いたしました。

(50代 女性)

共生への知恵と喜びがいっぱい詰まっています。「あいつよりは・・・」と思わない世界は、こんなに素敵なのだ、と教えてくれます。

(60代 男性)

人との関わりを生かせる人こそが一番美しく生きているのだなあ、と感じました。

(30代 男性)

“家族”っていいな。そう思えるドキュメンタリーでした。撮り続けることの凄さ、撮られ続けることの凄さ。

人と人は答えのないなかを生きていく。そんな当たり前のことが写っていました。

愛情で結ばれた飾りのないまっすぐな言葉につつまれながら、懐かしい奈緒ちゃん一家の世界に帰ってゆくことができました。

自分自身の25年間を思い返しました。



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



伊勢真一プロフィール



演出・伊勢真一（いせ しんいち）

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。奈緒ちゃんの叔父にあたる。

長編ドキュメンタリー映画のデビュー作は、
8才の奈緒ちゃんとその家族に寄り添い12年間を記録した映画『奈緒ちゃん』（1995年）。
この作品で、毎日映画コンクール記録映画賞グランプリ他多数を受賞。
その後も長きにわたり撮影を続け“奈緒ちゃんシリーズ”として
『ぴぐれっと』（2002年）、『ありがとう』（2006年）を製作。
2017年の本作『やさしくなあに』はシリーズ第4弾となる。

その他、寝たきりの障がい者で学生時代の友人・遠藤滋と介助の若者たちとの交流を描いた
『えんどこ』、小児がんの子どもたちの生きる力を描いた『風のかたち』をはじめ、
現在に至るまで数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作している。

『えんどこ』キネマ旬報文化映画第7位他、
『風のかたち』文化庁映画賞・カトリック映画賞他、
『大丈夫。』キネマ旬報文化映画第1位、
『傍（かたわら）～3月11日からの旅～』キネマ旬報文化映画第6位受賞。
2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ夢倶楽部賞受賞。

近作は『妻の病ーレビー小体型認知症ー』（2014年）、
『ゆめのほとりー認知症グループホーム 福寿荘ー』（2015年）、
『いのちのかたちー画家・絵本作家 いせひでこー』（2016年）など。



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



奈緒ちゃんの35年に寄り添ったスタッフ

35年にわたる歳月の記録を可能にしたのは、スタッフの存在です。
今は亡き、撮影の瀬川順一さんをはじめ、数多くのスタッフが、
自主製作・自主上映の作品創りを支持してくれました。

出演	西村奈緒 西村記一 西村信子 西村大乗 内田三郎 プーちゃん 「びぐれっと」のみんな	宣伝デザイン	森岡寛貴 遠藤郁美	上映協力	MOCプロジェクト
		上映デスク	増馬則子 鷺見真弓 相原余至子 東志津	特別協力	伊勢長之助 木島浜子 瀬川浩 柳田義和 瀬川龍
撮影	石倉隆二 瀬川順一 宮田八郎 世良隆浩 田辺司 伊勢朋矢	制作協力	奈緒ちゃん一家 社会福祉法人「びぐれっと」 グループホーム「みなみ風」 ヒポコミュニケーションズ 一隅社 クロスフィット ハチプロダクション ジオングラフィック		大槻秀子 木村勝英 熱海鋼一
照明	箕輪栄一 工藤和雄			企画・製作	いせフィルム
音響構成	米山靖			演出	伊勢真一
録音	渡辺文彦 永峯康弘 井上久美子		助川満 岩永正敏 守内尚子 前田祥丈 高内優 大場健二 篠塚昌述 野口香織 飯田光代 藤崎和喜		
編集	尾尻弘一				
テーマ曲	「Home, Sweet Home」				
演奏・歌	西村信子				

映画 『やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～』

2017年／カラー／1時間50分／ハイビジョン（16:9）
DCP・HDV・DVカム・ブルーレイ・DVD



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



上映の予定 (2017年 6月 現在)

奈緒ちゃんの44才の誕生月である2017年7月、
その7月29日(土)の完成上映会をきっかけに、上映活動に取り組む心づもりです。
完成上映、劇場公開、そして自主上映と、上映の輪を拡げていきます。
新作『やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～』の現段階での上映予定を紹介します。

完成上映会

2017年 7月29日(土) ————— 東京完成上映会
(ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷)
9月10日(日) ————— 秋田完成上映会
(ヒューマンドキュメンタリー映画祭 秋田)
9月16日(土)・17日(日) ——— 岩手完成上映会
(はなまき映像祭)

その他、大阪、仙台、広島、山口、等で完成上映を行います。

劇場公開

2017年 11月4日から 東京・新宿K's cinema (ケイズシネマ) にて公開
その後、大阪・シアターセブン、名古屋・名演小劇場、横浜・ジャック&ベティ、三重・伊勢進富座、
金沢・シネモンド、京都・京都シネマ、静岡・シネギャラリー、浜松・シネマイーラ、広島・横川シネマ、
新潟・シネウィンド 他 全国各地のミニシアターで上映予定。

自主上映

2017年 秋から、全国各地で自主上映に取り組めます。

伊勢真一監督作品は、自主製作の処女作『奈緒ちゃん』以来、

20数年間にわたり自主上映を中心に観られてきました。

「奈緒ちゃんシリーズ」(『奈緒ちゃん』『ぴぐれっと』『ありがとう』)の上映実績は、
およそ1,000カ所におよびます。

新作『やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～』も、
自主上映に積極的に取り組む心づもりです。

観た人から次の人に、上映のバトンを手渡していく
いせフィルムの自主上映ネットワークを駆使して、
一人でも多くの方に映画を観てもらいたいと考えております。

〈上映の問合せ〉 いせフィルム www.isefilm.com
TEL. 03-3406-9455 FAX. 03-3406-9460 E-mail. ise-film@rio.odn.ne.jp
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階



ヒューマンドキュメンタリー映画

やさしくなあに

～奈緒ちゃんと家族の35年～



取材・ご紹介のお願い

いつも応援ありがとうございます。
新作『やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～』の完成が間近です。

1983年の正月にクランクインして、
奈緒ちゃんと家族に寄り添い続け、
気がつけば35年の歳月が積み重ねられていました。

『奈緒ちゃん』『ぴぐれっと』『ありがとう』と、
これまで三本の映画にまとめられてきた奈緒ちゃんシリーズの第4弾は、
ドキュメンタリー映画史上例のない、
35年間の長期にわたる記録、
障がいのある少女・奈緒ちゃんと家族の物語です。

新作映画『やさしくなあに』の取材をしていただき、
新聞紙上、放送等で、ご紹介いただければ、と思っています。

映画の資料、DVDなど、
必要なものがあれば、お問い合わせください。

お力添え、よろしく願いいたします。

かんとく 伊勢真一
(いせフィルム)

《問合せ》いせフィルム



〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階

Tel.03-3406-9455 / Fax.03-3406-9460

E-mail. ise-film@rio.odn.ne.jp

<http://www.isefilm.com>